

もうすぐ雪が解けて暖かくなると、外の猫たちの求愛行動が活発になり、家の中の猫たちも落ち着かなくなる季節がやって来ます。

雌猫は繁殖の季節が決まっています、日照時間が長くなると発情が始まります。それに対して、雄猫は一年中繁殖が可能で、発情している雌に反応しているのです。



猫の発情行動は家庭内の猫の場合、さまざまな問題を引き起こします。これを抑えるには、一時的な方法と永久的な方法が

猫の避妊・去勢手術の長所と短所

	雄	雌
長所	スプレー行動の減少 尿臭の軽減 逃走癖の減少 攻撃性の低下 精巣の病気の予防	発情兆候の抑制 望まない妊娠の防止 卵巣・子宮の病気の予防 乳腺腫瘍の発生率低下
短所	繁殖能力が無くなる、手術・麻酔のリスク 手術後の管理が必要、手術後に体重が増える可能性	

猫の避妊・去勢

吉田動物病院長 (射水市小島)

吉田 俊一

あります。一時的に雌猫の発情を抑える方法としては、ペレット状のホルモン剤を皮膚の下に埋め込むインプラント法があります。永久的な方法は外科手術です。雄の場合は精巣の摘出、雌の場合は卵巣または卵巣と子宮の全摘出手術になります。

あるため、お薦めはできません。手術の長所、短所について説明したいと思います。

ですが、繁殖能力が無くなるので子供をつくることができなくなります。手術、麻酔に対するリスクもあります。避妊・去勢とも全身麻酔が必要な手術ですので、そのリスクは全くないとは言えません。

てしまいます。要するに手術後、食事を食べるだけ与えれば体重は増えますが、一定の食事を与え、規則正しく適度な運動をした場合は体重が維持され、過度の肥満になることを防げます。

長所と短所 理解して

多く、特に雌の場合は初回の発情前に手術をした方がよい場合があります。ただし、生後3カ月以前は麻酔の安全性に問題が

逃走癖といった性ホルモンに関連する問題行動も抑制できま

終わった後も、猫自身が手術の傷口をなめて自らの体を傷つける危険性があります。飼主さんも手術後に猫が感染しないか注

るまで飼い主との良好な関係を保つためにも、手術は有意義な方法だと思えます。



避妊手術。長所と短所を確かめてから行うことが大切です。射水市の吉田動物病院

手術後しばらくして起る問題に、肥満があります。精巣や卵巣の摘出手術の結果、ホルモンのバランスが崩れたのが原因ではないかとの質問をよく受けますが、そうではありません。手術後は休息時の体の代謝率が低くなり、必要とするカロリー量が減ります。行動範囲が狭まることから、運動量も少なくなり、食欲は変わらないか増加する傾向があるため、食欲に合わせて食事を与えていると太っ

猫自身は、手術で繁殖能力が無くなることを悲観することはありません。寿命を全うするまで飼い主との良好な関係を保つためにも、手術は有意義な方法だと思えます。